

事業報告書

事業名	パラアート（障害者アート）国際交流事業
事業の実施状況	<p>障害者アート（パラアート）の国際展覧会として、2009年から開催し7回目の国際展ですが、特に今回は東京2020オリンピック・パラリンピックを記念して「障害者のスポーツ」とともに「障害者の文化」の重要性を「パラアート」という呼称の国際的周知とともに、障害者の幅広い活動とその作品の社会的な認識の国際的拡大を図り、併せて諸外国の障害者の文化交流を支えて芸術文化の育成に寄与することを目的に「東京都障害者総合美術展」と連動して感染症対策を徹底のうえ開催いたしました。</p> <p>今回はコロナの影響で来日、来場いただけない方々に、また世界に向けて、ウェブでパラアートオフィシャルページ www.paraart.jp に、2020 バーチャルギャラリー https://virtualgallery.paraart.jp/2020/ を開設し、会期終了後も全作品の鑑賞と記念シンポジウムの視聴ができるよう継続掲載しております。</p> <p><2020 パラアート TOKYO 第7回国際交流展> （開催日時）令和2年8月19日（水）～23日（日） 会期5日間10時～18時 （開催場所）東京芸術劇場 ギャラリー1・2 （来場者数）延べ 1,108人 （作品展示）268点（応募数主に国内より583点、外国は主に団体推薦） 絵画作品 日本123点 児童28点 海外85点 書作品 日本20点 中国5点、韓国5点 児童2点 （参加国）35か国2地域（香港、スコットランド）</p> <p><記念シンポジウム> 「日本の障がい者アートの軌道そして、未来へ」 無観客にて開催（バーチャルギャラリーで配信） （開催日時）8月19日14時～16時 （開催場所）豊島区庁舎内 区議会議場 シンポジスト／登壇者 1. 建島哲（多摩美術大学学長） 3. 山下浩（山下清作品管理事務所代表） 2. 高野之夫（豊島区長） 4. 貝谷嘉洋（日本バリアフリー協会代表）</p> <p><第35回東京都障害者総合美術展のパラアート作品の展示> （開催日時）令和2年9月2日（水）～6日（日）10時～21時</p>

	<p>(開催場所) 西武池袋本店 7 階催事場 (来場者数) 延べ 1,584 人 (展示作品) 200 点 (パラアート作品 20 点含む)</p> <p><バーチャルギャラリー>の開設 インターネットに 2020 バーチャルギャラリー https://virtualgallery.paraart.jp/2020/を開設し、 会期終了後も全作品の鑑賞と記念シンポジウムの視聴 ができるよう継続掲載した。</p>
<p>事業の成果</p>	<p>「障害者のスポーツ」とともに「障害者の文化」の重要性を 「パラアート」と言う呼称の国際的周知ともに、障害者の幅広い活動とその作品の認識の国際的拡大を図り、当協会のホームページの改良や、英語版の募集ページを作成しインターネットを通して海外への周知拡大を図り計画いたしました。</p> <p>コロナの感染拡大の自粛の中、厳重な感染防止対策を施し 「2020 パラアート TOKYO」国際交流展と無観客での記念シンポジウムを開催することが出来ました。</p> <p>展示会開催期間中は、多くの来場者の方々に障害者アート (パラアート)の魅力を堪能していただきました。</p> <p>しかし残念ながら、コロナの感染拡大により来日や自粛により 来場できない作者や関係者の方々にはバーチャルギャラリーを WEBにhttps://virtualgallery.paraart.jp/2020/開設し会期終了後も全作品の鑑賞と記念シンポジウムの視聴ができるよう継続掲載した。</p> <p>この国際交流展を通じ、障害に対する理解を深めるとともに、 障害のある方が芸術文化活動を通じて自己を表現し、社会とより 広く関わりを持ち、その自立と社会参加を一層促進し、ひいては、 障害の有無に関わらず、お互いを尊重しながら共生する社会の実現 に繋がっていくことを改めて確認することができました。</p> <p>以上の事業を終了後、その成果物として、報告を兼ねた「図録」を 編集、10 月末に完成し、海外を含め、関係方面に配布、これからの 取組や活動の機会拡大につなげることができました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図 録 500 冊 出展者、後援、協力他関係者に配布 2. シンポジウム議事録 300 冊 後援、協力他関係者に配布 3. バーチャルギャラリー実施報告書 100 冊後援、協力関係者に配布